

K-94

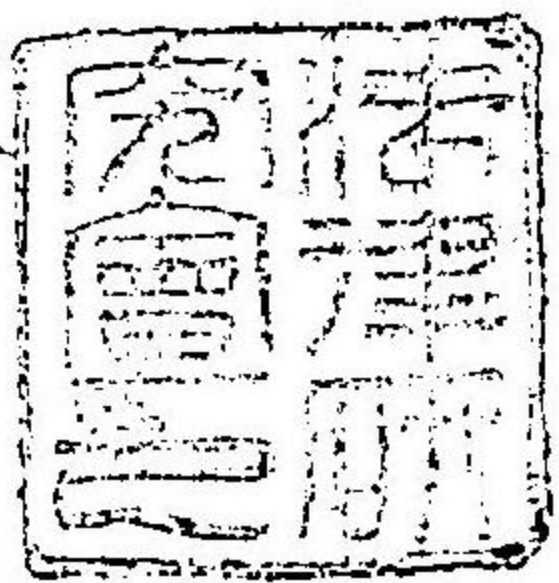
明治四十一年十月一日ヨリ實施

257
790

改正新刑法註釋

附刑法施行法、新判決例

東京法律研究會發行



朕刑法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月二十七日

遞	司	外	文	內	大	海	農	陸	內閣總理大臣
信	法	務	部	務	藏	軍	商	軍	
大	大	大	大	大	大	大	大	大	
臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	
子爵	男爵	伯爵	男爵		男爵		子爵	侯爵	
堀	千	林	牧	原	松	齋	松	寺	西園寺公望
田	家		野	田	藤	岡	康	正	
正	尊		伸	正					
養	福	董	顯	敬	久	實	毅	毅	

勅令第六十三號
刑法ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行セシム



註釋

法例ハ刑法ノ原則ニシテ效力ヲ規定シタルモノナリ

第一條ハ土地ノ範圍ニ關スル原則ヲ規定シ帝國臣民ナルト外國人ナルトヲ問ハス國內ニ於テ罪ヲ犯シタルモノハ本刑法ノ制裁ヲ受クルナリ

第二條ハ帝國外ニ於テ犯シタル罪ニ付テモ我カ刑法ヲ適用スヘキ場合ヲ規定シタルモノナリ

國家ハ常ニ安全ニ生存セシムトヲ欲スルモノナリ故ニ國家ノ生存ヲ妨害スル者ハ犯罪者ニシテ之ニ刑罰ヲ加ヘテ其ノ

改正新刑法註解

第一編 總則 第一章 法例

第一條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス帝國ニ在ル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ

第二條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

- 一 第七十三條乃至第七十六條ノ罪
- 二 第七十七條乃至第七十九條ノ罪
- 三 第八十一條乃至第八十九條ノ罪
- 四 第四百十八條ノ罪及ヒ其未遂罪
- 五 第五百十四條第五百十五條第五百十七條及ヒ第五百十八條ノ罪
- 六 第六十二條及第六十三條ノ罪
- 七 第六十四條乃至第六十六條ノ罪及ヒ第六十四條第二項、第六十六



侵害ヲ防禦セサルヘカラス今
若シ外國ニ於テ犯シタル罪ト
雖モ苟モ我帝國ノ生存ヲ妨害
セントスル場合又ハ我國民ノ
損害ヲ生スル罪ナルトキハ國
家ノ生存ヲ維持センカ爲メト
國民ノ利益ヲ保護センカ爲メ
トニ我刑罰權ヲ行ハサルヘカ
ラス
第三條ハ生命、身体、自由、
財産、又ハ信用ニ關スル罪其
他放火罪又ハ未遂、文書、繪圖
印章ノ偽造又ハ男又ハ女ニ
對シ猥褻ノ行爲ヲナシタル者
又ハ其ノ未遂婦女ヲ姦淫シタ
ル罪又ハ未遂、人ヲ殺シタル

十五條第二項、第六十六條第二項ノ未遂罪
第三條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用
ス
一 第八條第九條第一項ノ罪、第八條第九條第一項ノ例ニ依リ處
斷ス可キ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪
二 第九十九條ノ罪
三 第一百五十九條乃至第六十一條ノ罪
四 第六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂罪
五 第七十六條乃至第七十九條、第八十一條及ヒ第八十四條ノ罪
六 第九十九條、第二百一一條ノ罪及ヒ其未遂罪
七 第二百四條及ヒ第二百五條ノ罪
八 第二百四條乃至第二百十六條ノ罪
九 第二百十八條ノ罪及ヒ同條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪
十 第二百二十條及ヒ第二百二十一條ノ罪
十一 第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪
十二 第二百三十一條ノ罪

罪又ハ未遂、老者、幼者又ハ
不具者ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ
必要ナル保護ヲ爲ササル罪、
逮捕又ハ監禁ノ罪人ヲ拐取シ
又ハ被拐取者ヲ藏匿ノ罪
第四條ハ仲裁人カ收賄ノ罪、
公務員又ハ仲裁人カ偏頗ノ處分
ヲ爲シタル罪又看守者カ護送
者カ被禁者ニ對シ暴行ヲ爲ス
トカ其犯人ノ居處カ失火其他
天災ニ罹リタルトキ其ノ災ニ
罹ラシメンカ爲メ他ニ避ケシ
ムルコトヲ爲サ、ル罪
第五條ハ外國ニ於テ犯シタル
罪ヲ外國獨リ罪トスルト外國
ニ於テ犯シタル罪ヲ我國獨リ

十三 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十
一條及ヒ第二百四十三條ノ罪
十四 第二百六條乃至第二百五十一條ノ罪
十五 第二百五十三條ノ罪
十六 第二百五十六條第二項ノ罪
帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦同シ
第四條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ
適用ス
一 第一百一條ノ罪及ヒ其未遂
二 第一百五十六條ノ罪
三 第九十三條、第九十五條第二項、第九十七條ノ罪及ヒ九十五條
第二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪
第五條 外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行爲ニ付キ更ニ處罰スル
コトヲ妨ケス但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ
受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得
第六條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス

罪トスルト外國ニ於テ犯シタル罪ヲ我國獨リ罪トスルト外國ニ於テ犯シタル罪ヲ外國及ヒ日本モ國法ニ從ヒ處罰スヘキコトアリ

第六條ハ舊第三條ヲ其輕キモノヲ適用スト修正シテ補ヘリ
第七條ハ其種類多クシテ一々之ヲ列舉スルコト能ハス
第八條ハ特別法ニシテ陸海軍人ニノミ適用スルモノナリ其他特別ノ身分ヲ有スル者ノ爲メニ設ケル法律ヲ特別法トス
第九條ハ死刑ヲハシメ科料ノ六種ト沒收ヲ附加刑トシタリ
第十條ハ刑罰中最モ重キハ死

第七條 本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其ノ他職員ヲ謂フ
公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

第八條 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限リニ在ラス

第一章 刑

第九條 死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ附加刑トス
第十條 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス
同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス
二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ罪ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム
第十一條 死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス
死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘留ス

罰トス人トシテ其生命ヲ奪フハ世人其所爲ヲ做フ者ノ戒メト爲スニアリ

第十一條ハ死刑ノ執行ニ關スル規定ナリ死刑ハ監獄内ニ於テ之ヲ執行シ決シテ公ノ場所ニテスルコトヲ許サス

第十二條ハ國事犯者ト雖モ優待セサルニ至レリ

第十三條ハ舊法ト異ナル所ナシ只多クノ刑名ヲ附セス

第十四條ハ新法カ特ニ本條ヲ設ケタル所以ナリ

第十五條ハ罰金ヲ二十圓トシ科料ヲ二十圓未滿トス

第十六條ハ懲役、禁錮ハ一月

第十二條 懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一月以上十五年以下トス懲役ハ監獄ニ拘留シ定役ニ服ス

第十三條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一月以上十五年以下トス禁錮ハ監獄ニ拘留ス

第十四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得

第十五條 罰金ハ二十圓以上トス但之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二十圓以下ニ降スコトヲ得

第十六條 拘留ハ一日以上三十日未滿トシ拘留場ニ拘留ス

第十七條 科料ハ十錢以上二十圓未滿トス

第十八條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス
科料ハ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス
罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト

以上拘留ハ一月未滿トス
 第十七條ハ舊法ニハ科料ヲ五
 錢以上一圓九十五錢以下ト定
 メ加重ノ結果二圓四十錢ニ至
 ルニ過キササルヲ以テ新法ハ十
 錢以上二十圓未滿トナシタリ
 第十八條ハ罰金ヲ徵收スル場
 合犯人無資力ニシテ之ヲ納ム
 ルコト能ハサル者及ヒ拒ム者
 ハ勞役場ニ留置シテ其自由ヲ
 制限スルト共ニ便宜勞役ニ從
 事セシメ其ノ得タル勞銀ヲ以
 テ罰金又ハ科料ニ充テ、一日
 モ早ク留置所ヲ出ツルコトヲ
 得セシムルモノトス
 長期ニ達スル場合ニ於テハ其

能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ
 罰金ニ付テハ裁別確定後二十日内科料ニ付テハ裁判確定後十日内本人ノ承諾
 アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス
 罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ全額
 ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス
 留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ
 留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス
 第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得
 一 犯罪行為ヲ組成シタル物
 二 犯罪行為ニ供シ又ハ供セントシタル物
 三 犯罪行為ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物
 沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セザルトキニ限ル
 第二十條 拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定アルニ非サレハ沒收
 ヲ科スルコトヲ得ズ但前條第一項第一號ニ記載シタル物ノ沒收ハ此ノ限リニ
 在ラス
 第二十一條 未決拘留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

期限ヲ二ヶ月ニ制限シタリ

第十九條ハ第二者ノ手中ニア
 ル場合ヲ除キ犯人ニ屬スル場
 合及ヒ所有者不明ナル場合モ
 之ヲ沒收ス

第二十條ハ舊法ニ見サル規定
 ナリ

第二十一條ハ拘留日數ニ付テ
 之ヲ刑期ニ算入スルコトヲ許
 シタレトモ判決以前ノ拘留ハ
 犯人ノ損失ニ歸スヘキモノト
 ス

第二十二條ハ禁錮一ヶ月ヲ三
 十日ト定ム

第二十三條ハ舊法ニ於テハ刑
 期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス

第三章 期間計算

第二十二條 期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシクルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算
 ス

第二十三條 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス
 拘禁セラレザル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セス

第二十四條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時効期間ノ初
 日亦同シ
 放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

第四章 刑ノ執行猶豫

第二十五條 左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキ
 ハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スル
 コトヲ得

- 一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
- 二 前條禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行
 ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ
 者

ルコト、規定セリ新法ハ大ニ異ナルナリ

第二十四條ハ犯人何時執行ヲ受クルモ一日ト定メ刑期放免ハ終了翌日ト定ム

第二十五條ハ七年以内ニ更ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者ニモ恩典ヲ與フルモノトス其ノ主意ハ犯罪以後七年ニ亘ルノ久シキ品行ヲ慎ミ再犯ノ情ナカリシ者ナルニ因ルナリ

第二十六條ハ一旦與ヘタル執行猶豫ノ事由ヲ規定シタルナリ
第二十七條ハ猶豫期間ヲ經過

第二十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘシ

- 一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 三 前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

第二十七條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サル、コトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フ

第五章 假出獄

第二十八條 懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

- 第二十九條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得
 - 一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
 - 二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
 - 三 假出獄前他ノ罪ニ付罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ

シタルトキハ其刑ノ執行ハ終ニ免除セララル、モノトス而シテ執行猶豫ヲ取消スヘキ事由ハ更ニ罪ヲ犯ストカ又ハ要件ヲ具備セサルコトノ發覺シタルトニヨル

第二十八條ハ懲役又ハ禁錮ニ處セラレ獄中ニ在ル者ト雖モ改悛ノ狀現ヘレタルトキハ行政處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

第二十九條ハ假出獄ノ取消スヘキ理由ヲ規定シタルモノナリ

第三十條ハ罰金又科料ヲ完納スルコト能ハサルカ爲メニ留置セラレタルモノモ相當ノ事由アルトキハ其執行ヲ免除ス

ヲ爲ス可キトキ

- 四 假出獄取締規則ニ違背シタルトキ
- 假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス
- 第三十條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得
- 罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦同シ

第六章 時効

第三十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時効ニ因リ其執行ノ免除ヲ得

第三十二條 時効ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内其執行ヲ受ケサルニ因リ完成ス

- 一 死刑ハ三十年
- 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年
- 三 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ十年、三年未満ハ五年
- 四 罰金ハ三年

ルコトヲ得ルコトアリ

第三十一條ノ時効ハ滿期免除ト云ヒシ語ヲ改メタルモノニシテ其意ニ異ナルコトナシ死刑ハ爲メニ生命ヲ得、懲役ハ身體ノ自由ヲ檢束セラル、コトヲ免レテ無罪ノ人トナリ罰金ハ之ヲ納ムルニ及ハサルカ如キ必ス刑ノ上ニ免ル、コトヲ得ヘキモノナリ

第三十二條ハ刑ノ言渡シ確定シタル後ヨリ本條ニ掲ケタル期間内ニ其執行ヲ受ケサルニ因リ期間滿了シテ刑ヲ免ル、モノトス

第三十三條ハ犯人逃走シテ不法ニ刑ノ執行ヲ免レタル者ニ付テノ規定ナリ

五 拘留、科料及ヒ沒收ハ一年

第三十三條 時効ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ハ進行セス

第三十四條 時効ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス罰金、科料及ヒ沒收ノ時効ニ執行行為ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷ス

第七章 犯罪ノ不成立及ビ刑ノ減輕

第三十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行為ハ之ヲ罰セス

第三十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行為ハ之ヲ罰セス

防衛ノ程度ヲ超エタル行為ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十七條 自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ避ケル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行為ハ其行為ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限り之ヲ罰セス但其程度ヲ超エタル行為ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セス

第三十四條ハ罰金科料沒收刑ノ時効ノ中斷方法ナリ

第三十五條ハ正當ノ業務ニヨリ爲シタル行為ハ罪トナラス例ヘハ醫師カ手術上人ヲ死ニ至ラシムトモ罪トナラス

第三十六條ハ正當防衛ニシテ例ヘハ贓品ヲ取返サント殺傷スルハ無罪ナルモ何物モ窃取セサル者ヲ殺傷シタルハ免除スルコトヲ得サルナリ

第三十七條ハ警官又ハ船長カ自己ノ危難ヲ免カル、爲メ其ノ保護ノ下ニアル者ノ生命ヲ損スモノ、如キハ職務ヲ以テ却テ他ヲ害スルニ至レハナリ

第三十八條ハ無意犯トテ例ヘ

第三十八條 罪ヲ犯ス意ナキ行為ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニアラス

罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從ツテ處斷スルコトヲ得ス

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第三十九條 心神喪失者ノ行為ハ之ヲ罰セス

心神耗弱者ノ行為ハ其刑ヲ減輕ス

第四十條 瘡癰ノ行為ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス

第四十一條 十四歳ニ滿マサル者ノ行為ハ之ヲ罰セス

第四十二條 罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

告訴ヲ待テ論ス可キ者ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦同シ

第八章 未遂罪

第四十三條 犯罪ノ實行ニ着手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但

ハ處女ナリト信シテ通シタルニ有夫ノ婦ト姦通シタル場合又隣家ノ者ヲ殺サントシテ自己ノ兄弟ヲ殺シタル場合ハ有夫姦殺人犯ノ責ハ免レヌモ加重ノ情狀ヲ構成シタルハ犯人ノ錯誤ニ出テタル所爲ナリ

第三十九條ハ精神病者泥醉者幼者ハ減輕ス

第四十條第四十一條ハ前條ニ同シ

第四十二條ハ罪ヲ犯シ自首シタル者ハ減輕ス

第四十三條第四十四條ハ未遂罪ナリ

第四十五條ハ裁判ノ前後ヲ問ハス發覺シタル罪ヲ併合スルニアリ

自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

第四十四條 未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

第九章 併合罪

第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ亦タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

第四十六條 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但沒收ハ此限ニ在ラス

其罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但罰金、科料及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

第四十七條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

第四十八條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

第四十六條ハ無期懲役、死刑ハ重キ刑ナレハ併科ハ罰金科料トシテ徵收ス

第四十七條ハ最モ重キ罪ニ對スル刑ト他ノ罪ノ刑ヲ加ヘルトキハ其重キ刑ニ之カ半ヲ加ヘタルモノヨリ長キトキハ併合罪ノ長期ヲ加ヘタルモノニ超ユルトキヲ得サルモノトスルハ但書ノアル所以ナリ

第四十八條ハ二個以上ノ罰金ハ其罰金ヲ合算シテ其金額以下ニ於テ處斷スルナリ

第四十九條ハ附加罰ノ規定ナリ

第五十條ハ未タ裁判ヲ經サル罪ノ罰ヲ以テ處斷スルモノトス

第四十九條 併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得

二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

第五十條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス

第五十一條 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金、科料及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス

第五十二條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受サル罪ニ付キ刑ヲ定ム

第五十三條 拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス

第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タ

第五十一條ハ第四十六條第四十七條ノ規定スル處ナリ

第五十二條ハ併合罪ニシテ大赦ヲ受ケサル罪ニハ刑ヲ定メテ科スルモノトス

第五十三條ハ重罪ト同時ニ發覺シタル場合ニ併セテ科スルモノトス

第五十四條ハ例ヘハ人ノ家ヘ侵入シテ窃盜ヲ行フトカ強姦ヲ行フカ如キニシテ最モ重キ罪トス

第五十五條ハ連續シタル行爲カ數個アル場合ニハ一罪トシテ處斷スルモノトス

第五十六條ハ再犯ハ刑ヲ加重スル爲メニ設ケタル規定ナリ初犯ヨリ五年内ニ更ニ有期懲

ル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ル、トキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第十章 累犯

第五十六條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキ亦同シ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス

第五十七條、再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス

第五十八條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ

役ニ該ル罪ヲ犯セハ之レニ再犯例ヲ適用スヘキモノトシテ

第二項ノ規定アル所以ナリ

第五十七條ハ再犯ヲ防ク爲メ

ニ加重ノ分量ヲ増加シ其罪ニ付キ定メタル刑期ノ二倍以下ヲ以テ再犯ト定メタルナリ

第五十八條ハ裁判ノ當時再犯ヲ隱蔽シテ其後發覺スルニ至レハ更ニ其刑ヲ加重スルコトヲ規定シタルモノナリ

第五十九條三犯以上ト雖モ別ニ加重例ヲ設クル必要ナシトシタルモノナリ

第六十條ハ正犯再犯トシ正犯ハ各自ニ其刑ヲ科シ再犯ハ一等ヲ減ス

第六十一條教唆トハ知人ニ對

加重ス可キ刑ヲ定ム

懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ付キ前項ノ規定ヲ適用セス

第五十九條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ

第十一章 共犯

第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

第六十二條 正犯ヲ補助シタル者ハ從犯トス

從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス

第六十三條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

第六十四條 拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アリニ非サレハ之ヲ罰セス

第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行爲ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス

シ犯罪實行ナラシムヲ云フ
 第六十二條從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ストシタルハ前條ノ例ト同シ
 第六十三條正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス
 第六十四條ハ處罰ス必要ナシトス
 第六十五條ハ身分ニ因リテ罪ヲ構成ストアリ
 第六十六條ハ病中ニ藥ヲ窃取スルカ如キナ酌量トナス
 第六十七條ハ重キ罰ハ酌量スルモ輕キ罰ハ減セサルニアリ
 第六十八條ノ改正法ハ刑ノ範圍極メテ大ナルヲ以テ之ヲ減輕スルトキハ非常ノ刑ヲ輕クスルコトト爲ルヲ以テ縱令減輕

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

第十二章 酌量減輕

第六十六條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第六十七條 法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

第十三章 加減例

第六十八條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ依ル

- 一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス
- 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス
- 三 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス
- 四 罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス

輕ノ原因カ多クアル場合ト雖モ之ヲ合シテ一ト爲シ一度ヲ刑減輕スルニ止ムルナリ此ノ減輕方法ハ一號ヨリ六號マテノ間ニ減輕スルモノトス
 第六十九條懲役禁錮罰金ノ刑名ハ其中ノ一ヲ擇ハシム
 第七十條注ヲ要セス
 第七十一條右ニ同シ
 第七十二條本條ハ同時ニ刑ヲ加重減輕スヘキトキノ順序ヲ規定シタルモノナリ
 第七十三條皇室ニ對スル罪ハ列記シ奉リタル天皇陛下以下皇孫殿下ニ對シ奉リテ犯ス罪ヲ云フ此罪ヲ二種ニ分ツテ即チ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスル者ノ罪是レナリ

五 拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス

第六十九條 法律ニ依リ刑ヲ減輕スヘキ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用スヘキ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

第七十條 懲役禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時間ヲ剩ストキハ之ヲ除棄ス

罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ

第七十一條 酌量減輕ヲ爲スヘキトキ亦第六十八條及ヒ前條ノ例ニ依ル

第七十二條 同時ニ刑ヲ加重減輕スヘキトキハ左ノ順序ニ依ル

- 一 再犯加重
- 二 法律上ノ減輕
- 三 併合罪ノ加重
- 四 酌量減輕

第二編 罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第七十四條ハ不敬ノ所爲トハ
齒齣ヲ拜スル際樹木ニ登リ又
ハ高キ階上ヨリ拜セントスル
者ハ不敬ノ罪トハナラサルモ
謹ムヘキナリ

第七十六條ハ前條ノ如シ

第七十七條國事犯トハ政事の
犯罪ニシテ内亂ニ關スル罪ナ
リ例ヘハ政府運撥スルトカ朝
憲ヲ紊亂スルトカノ事ナリ

第七十八條内亂ノ豫備トハ兵
ヲ集メ又ハ兵器、金穀ヲ準備
スルトカ軍備ヲ調査スル等ヲ
云フ又陰謀トハ二人以上相集
リテ犯罪行爲ヲ謀議計畫スル
等カ外形ニ現ハレタル舉動ニ
シテ之ヲ犯罪進行ノ程度ヨリ
云フトキハ決心ヲ狀況ニ在ル

第七十三條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ
加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ不敬ノ
行爲アリタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者亦同シ

第七十五條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル
者ハ無期懲役ニ處ス

第七十六條 皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處
ス

第二章 内亂ニ關スル罪

第七十七條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的
シテ暴動ヲ爲シタル者ハ内亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス
- 二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮
ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

ナ云フ

第七十九條第八十條内亂ノ害
ハ至大ナルヲ以テ特ニ之カ害
惡ノ生セサルヲ防カント欲シ
テ自首ヲ獎勵スルニアリ

第八十一條安寧ヲ危フクスル
罪ヲ云フ本罪ハ戰時ニ限ル

第八十二條我カ國ニ背叛シテ
不忠ノ徒ナレハ前條ニ同一又
ハ無期懲役ニ處スルモノトス

第八十三條前條ノ如ク敵國ニ
交付シタルニ非サルモ敵國ニ
便利ヲ與ヘル目的ヲ以テ本條
ニ記載スル物軍用ニ供スル場
所又ハ物ヲ損壞シ日本國ノ軍
用ヲ害スル者前ト同一ナリ

第八十四條例ヘハ糧食兵馬石
炭ヲ敵國ニ交付シタル者前條

三 附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

第七十八條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處
ス

第七十九條 兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幫助シタ
ル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

第八十條 前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑
ヲ免除ス

第三章 外患ニ關スル罪

第八十一條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國
ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

第八十二條 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國
ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ
處ス

ノ罪ニ比スレハ輕シ
 第八十五條 敵國へ自國ノ事實ヲ間諜ス此等ノ者ニ對スル罪ハ重罪ナリ
 第八十六條 敵國へ軍事上ノ利益ヲ與ヘルハ賣國奴ノ一種ナリ
 第八十七條 同未遂罪
 第八十八條 註テ略ス
 第八十九條 我國ト英國ノ如キ戰時同盟ノ條約アリ
 第九十條 侮辱ヲ受ケタル君主又ハ大統領カ宥恕シタル場合ハ國際問題トナラス
 第九十一條 罪ヲ犯シタル者ハ本條ノ規定ニ從テ處罰スヘキナリ但侮辱罪ハ被害者ノ請ヲ待テ其罪ヲ論ス

第八十三條 敵國ヲ利スルカ爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、滾車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
 第八十四條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
 第八十五條 敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタルモノハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス
 軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏洩シタル者亦同シ
 第八十六條 前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス
 第八十七條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
 第八十八條 第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
 第八十九條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第四章 國交ニ關スル罪

第九十二條 外國ノ君主ニアラス一國ニ對シテ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テノ罪ヲ犯ス者ニ付テノ規定ナリ
 第九十三條 豫備トハ如何ナル程度迄テ戰鬪ノ着手ニ至ル迄ノ行爲ニシテ兵器ヲ準備シタル場合ヲ云フ
 第九十四條 兵器彈藥其他石炭等ヲ給與スルカ如キハ當然ノ違背ナリ
 第九十五條 公務員ノ職務執行ノ安全及ヒ公務所ノ尊嚴ヲ保護スル目的ヲ以テ規定シタルリ
 第九十六條 封印又ハ標本ヲ無効ナラシメタル者ハ本條ヲ以テ罰スルモノトス

第九十條 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年以上ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス
 第九十一條 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以上ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス
 第九十二條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以上ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス
 第九十三條 外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三年以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス
 第九十四條 外國交戦ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ三年以上ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十七條 既決ノ囚モ未決ノ囚モ逃走ハ同罪ナリ

第九十八條 註テ略ス

第九十九條 奪取スルニハ監督者ノ隙ヲ窺ヒ若クハ監督者ニ抗拒シテ之ヲ逐クル者ハ逃走罪ニ一等ヲ加重スルモノナリ

第一百條 囚人ノ逃走ヲ補助シタル者又ハ逃走セシムルノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ前條同一ノ刑ニ處スヘキモノトス

第一百一條 看守又ハ護送者カ逃走セシメタルヲ云フ
第一百二條 重大ナルモノ故ヘ未遂ヲ罰スルモノトス
第一百三條 隠避トハ隠匿ノ場所

ノ懲役ニ處ス
第一百四條 法合ニ依リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

ノ懲役ニ處ス
第一百一條 法合ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
第一百二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

ノ懲役ニ處ス
第一百三條 罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隠避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第一百四條 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造、變造シ若クハ偽造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

ノ懲役ニ處ス
第一百五條 本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲

第五章

公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第九十五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲ニ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

第九十六條 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効タラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六章

逃走ノ罪

第九十七條 既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第九十八條 既決、未決ノ囚人又ハ拘引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十九條 法合ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第七章

犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

第一百三條 罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隠避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百四條 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造、變造シ若クハ偽造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百五條 本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲

ニ使用シ居ル者ナレハノ意ニシテ現學ニ注目スヘシ

第百九條自己ノ所有ニ係ル物ヲ燒燬スルモ有罪タルヘキ理由ハナキカ放火ハ他人ノ物ニ延燒スルノ虞レアルヲ以テナリ

第百十條一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處スルモノナリ

第百十一條自己ノ所有ニ係ル物ニ火ヲ放テ燒燬スルモ他人ノ所有物ニ危険ヲ及ホササル時ハ罪輕キモ他人ノ物ヲ燒燬シタル時ハ其罪重シ

第百十二條放火ノ既遂未遂ハ諸説ニ分レタルハ略ス

第百十三條略ス

マニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

第八章 騷擾ノ罪

第百六條 多乘聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百七條 暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多乘聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九章 放火及ビ失火ノ罪

第百八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在セザル建造物艦船若クハ鐵坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ

第百十四條本條ハ騷擾ヲ機ト

シテ竊盜ヲ爲ストカ怨恨アル家屋ヲ燒クト云フ者往々アルヲ以テ新ニ之ヲ設ケタルナリ

第百十六條過失ニ因テ火ヲ失シタル場合ニ關スル規定ナリ

第百十七條故意ニ出テタル者ハ放火罪ニ準シ過失ノ場合ハ火失罪ニ準ス

第百十八條第二項ハ前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ其情重クシテ之ヲ過失

傷害罪ト爲スハ輕キニ失スルヲ以テ之ヲ傷害罪ニ問フヘキモノトシタルナリ

第百十九條溢水トハ水門ノ鎖

處ス

第百九條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セザル建造物艦船若クハ鐵坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危険ヲ生セザルトキハ之ヲ罰セス

第百十條 火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十一條 第百九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第百八條又ハ第百九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタル時ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百十二條 第百八條及ヒ第百九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百十三條 第百八條又ハ第百九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

第百十四條 火災ノ際鎖火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎖

閉キ開キ之ヲ開放シテ洪水ヲ出スヲ云フ例ヘハ堤坊ヲ破壊シテ一時ニ水ヲ濫出セシムルカ如キ之レナリ
第二百二十條前條ニ記載シタル以外ノ物トハ田圃、牧場、公園、ノ如キモノニシテ其侵害ヲ及ホシタル區域ノ廣キニ涉ル場合ヲ云フ

第二百二十二條前二條ハ水火ノ異ナルノミ故ニ説明ニ依リテ解釋スレハ自ラ明カナリ

第二百二十三條水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲トハ水利ハ水ノ使用ニ便ナルヲ云フモノニシテ田畑等ニ灌溉スルニハ此便利

ヲ必要トスル物ヲ妨害スルヲ云フ

第二百二十四條損壞トハ橋梁ナトニ損處ヲ生セシムルヲ云フ壅塞トハ陸路又ハ水路ニ障害物ヲ置キ往來ノ妨害ヲ生スルヲ云フ

第二百二十五條鐵道線路ノ目印トカ間號トカ電車ノ往來ヲ妨害スルトカハ其例ノ罪ニ處スルモノナリ

第二百二十六條瀛車、電車、ヲ顛覆シ艦船ヲ覆没又ハ破壊シタル場合ハ皆コノ中ニ包含ス

第二百二十七條瀛車、電車、ヲ

火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第一百五條 第九條第一項及ヒ第十條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

第一百六條 火ヲ失シテ第九條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物又ハ第九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第一百七條 火藥、瀝罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第九條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物又ハ第九條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル亦同シ

前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ
第一百八條 瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財産ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

以下ノ罰金ニ處ス
瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

第一百九條 溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
第二十條 溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ侵害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限り前項ノ例ニ依ル

第二十一條 水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞若シクハ其他ノ方法ヲ以テ防水ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二十二條 過失ニ因リ溢水セシメテ第九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者又ハ第九條ニ記載シタル物ヲ侵害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壊シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓

顛覆シ又ハ艦船ヲ覆没シテ人

ヲ死ニ至ラシメタルトキハ前
條ニ同シ

第二百二十八條 未遂罪トシテ罰
スヘキ場合ハ各本條ニ於テ規
定スルコト、爲シタルモノナ
リ

第二百二十九條 職務ニ不注意ナ
ルヨリ人ニ危害ヲ生セシメタ
ルトキモ過失ナリトシテ其罪
ヲ輕クスルトキハ職務ナシ
ヲ無責任トスルニ同シキナ
テ一般ノ人ノ過失ヨリ其罪重
カルヘキコト至當ナリ
第三百十條 家宅侵入ハ晝間ト
夜間トヲ問ハサルナリ

以下ノ罰金ニ處ス

第十一章 往來ヲ妨害スル罪

第二百二十四條 陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメ
タル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處
斷ス

第二百二十五條 鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ瀛車又ハ電車ノ
往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス
燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメタ
ル者亦同シ

第二百二十六條 人ノ現在スル瀛車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ
三年以上ノ懲役ニ處ス
人ノ現在スル艦船ヲ覆没又ハ破壞シタル者亦同シ
前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百二十七條 第二百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ瀛車又ハ電車ノ顛覆若クハ破壞又
ハ艦船ヲ覆没シ若クハ破壞ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第三百三十一條 皇居ハ陛下ノ御

住居ナリ禁園ハ皇居ノ御遊園

ナリ離宮ハ別ニ離レタル場所
ニアル假ノ御住居ナリ

第三百三十二條 註セス

第三百三十三條 信書ハ開封スル
ヲ許サス

第三百三十四條 漏泄トハ醫師カ
傳染病患者ヲ官ニ届出テサル
カ如キ之レナリ

第三百三十五條 註セス

第三百三十六條 阿片煙ノ如キ人
ノ健康ヲ害スル最モ甚タシト
ス故ニ法律ヲ以テ之ヲ嚴禁セ
サレハ防クコト能ハス

第三百三十七條 罪ヲ犯スニハ一

第二百二十八條 第二百二十四條第一項、第二百二十五條及ヒ第二百二十六條第一項、

第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百二十九條 過失ニ因リ瀛車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメ又ハ瀛
車、電車ノ顛覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆没若クハ破壞ヲ致シタル者ハ五百圓
以下ノ罰金ニ處ス
其業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下
ノ罰金ニ處ス

第十二章 住居ヲ侵ス罪

第三百三十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入
シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以
下ノ罰金ニ處ス

第三百三十一條 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三月以上
五年以下ノ懲役ニ處ス
神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

第三百三十二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十三章 秘密ヲ侵ス罪

人ニテ成立スルカ如キモ必ス輸入スル者製造スル者販賣スル者ノ三個ヲ牽連シテ犯スナ

第三百三十八條註セス

第三百三十九條阿片煙ヲ吸食シタル者ハ比較的重キ罪ニ處スルモノトス

第四百十條阿片煙吸食ノ器具ヲ所有スル者ハ罰セラル

第四百十一條吸食ノ器ヲ買求メテ既ニ吸食スヘキニ至リタルトキノ場合ナリ

第四百十二條汚穢シトハ不潔物ヲ投入シ又ハ濁水ト爲シテ飲料ニ用ヒルコト能ハサルト

第三百三十三條 故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十四條 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ

第三百三十五條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第十四章 阿片煙ニ關スル罪

第三百三十六條 阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第三百三十七條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第三百三十八條 稅關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第三百三十九條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第三百四十條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第三百四十一條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十五章 飲料水ニ關スル罪

第三百四十二條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百四十三條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第三百四十四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第三百四十五條 前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百四十六條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死

モ多シ略ス

第四百四十九條前條ニ同シ

第五百十條賈ヒ受ケタルモ受
取リタルモ情ヲ知リテ行使ス
ルモノヲ收得ト云フナリ

第五百五十一條前三條ノ如キ既
ニ器械等ヲ準備シテ最早罪ヲ
成スニ至リタル場合ナリ

第五百五十二條惡意ニ非スシテ
之ヲ官ニ告ケス使用スル者ナ
リ

第五百五十三條註略ス

第五十四條偽造ハ變造トハ其
行爲ニ於テ差異アルモノナレ
トモ目的スル意思ニ於テハ異
ナル所ナキ故ヘ其罪同一ナリ

第五百五十五條印章又ハ文書、

ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス
第四百四十七條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ一年
以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第十六章 通貨偽造ノ罪

第四百四十八條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造
シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ
交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

第四百四十九條 行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ貨幣紙幣又ハ銀行券ヲ
偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之
ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

第四百五十條 行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタ
ル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第四百五十一條 前三條ノ未遂罪ヘ之ヲ罰ス

第四百五十二條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル後其偽造又ハ變造ナルコト

繪圖ヲ偽造等其類多クシテ述
ヘ難シ

第四百四十六條目的ナキモ偽造
カ直チニ犯罪ヲ成立スルトキ
ハ行使ノ目的ヲ以テノ八字ヲ
用フルヲ要セサルナリ

第五百五十七條虛偽ノ申立ヲ爲
シ免狀、鑑札又ハ旅行券ニ不
實ノ記載ヲ爲サシメタル者九
リ例ヘハ屬籍、身分、氏名ヲ
詐稱シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ
免狀鑑札ヲ受ケタルモノヲ云
フ

第五百五十八條改正法ハ行使ノ
目的ニ出テタル文書ノ偽造罪
ヲ罰スルヲ以テ之ヲ行使シタ

ヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ハ其名價三倍
以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一圓以下ニ降スコトヲ得ス

第五百五十三條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ
器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三年以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第十七章 文書偽造ノ罪

第四百五十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ
文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文
書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者亦同
シ

第四百五十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シ
テ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務
所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書
若クハ圖書ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖書ヲ變造シタル者亦
同シ

ル者ノ處分ヲ必要トスルノミ
ナラス此種ノ罪ノ未遂ハ印章
偽造罪ニ問別スヘカラサルヲ
以テ其未遂ヲ罰スルモノト
ス

第百五十九條行使ノ目的ヲ以
テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使
用シ即チ偽造行使シテ他人ノ
印章ノ如ク信認セシムルニ足
ルヘキモノヲ用ヒテ左ノ事實
ヲ偽リタルヲ以テ其罪ヲ成ス
モノトス

第百六十條本條ノ規定ハ醫師
カ證明ノ作製ノ名義ヲ詐ルニ
非スシテ疾病證書作成ノ囑託
ヲ受ケタル醫師カ證書ヲ作成

スルニ當リ虚偽ノ事實ヲ記入
スルナリ例ヘハ徵兵忌避者ノ
囑託ヲ受ケテ故意ニ疾病ノ證
書ヲ作製シテ之ヲ免レシメン
コトヲ謀リタルカ如シ其他公
務上ニ必要アル診斷書ニ詐偽
ノ疾病證書ヲ造リタルヲ云
フ

第百六十一條本條ハ單ニ行使
シタル者ト偽造又ハ變造シタ
ル者ト不實ノ記載ヲ爲サシメ
若シクハ虚偽ノ記載ヲ爲シタ
ルト同一刑ナリ

第百六十二條虚偽ノ記入トハ
其形式上ノ事項ハ備ハレリト
雖モ其文面ニシテ偽リアル場

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖書ヲ偽造シ又ハ公務所
又ハ公務員ノ作りタル文書若クハ圖書ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ
三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五十六條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虚偽ノ文書若クハ圖書ヲ
作り又ハ文書若クハ圖書ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二
條ノ例ニ依ル

第百五十七條 公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正證書ノ
原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ
處ス

公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメ
タル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百五十八條 前四條ニ記載シタル文書又ハ圖書ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ
圖書ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虚偽ノ文書若クハ圖書ヲ作り又ハ不實ノ記載ヲ
爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務
又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若
クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖書ヲ偽造
シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實證明ニ關ス
ル文書若クハ圖書ヲ變造シタル者亦同シ

前二條ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖書ヲ偽造又ハ變造
シタルモノハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
第百六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虚偽ノ記
載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十一條 前二條ニ記載シタル文書又ハ圖書ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ
圖書ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル罪ト同一ノ刑ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十八章 有價證券偽造ノ罪

第百六十二條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ債券其他ノ有
價證券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

合シ云フモノナリ

第百六十三條 偽造ト相待ツテ
犯罪ヲ成スナリ

第百六十四條 印章ヲ使用スル
ハ偽造者其者ノ使用スル場合
ト偽造者ト使用者ト異ナル場
合ハ一人ハ使用罪一人ハ偽造
罪トス然レドモ一人ナルトキ
ハ使用ハ偽造ニ合シテ一罪ト
ス

第百六十五條 註略ス

第百六十六條 例ヘバ大藏省圖
書之印トシテ書籍ニ押用スル
カ如ク又ハ産物ニ押捺スルモ
ノヲ指ス此等ノ記號ヲ民間ノ
物品ニ押用シテ官物ノ如ク裝

行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ

第百六十三條 偽造、變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行
使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十
年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十九章 印章偽造ノ罪

第百六十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ二年以
上ノ有期懲役ニ處ス
御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使
用シタル者亦同シ

第百六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シ
タル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所又
ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第百六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲
役ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦
同シ

フエトナリ本條ハ行使スル目
的ヲ又タ此ノ記號ヲ偽造シタ
ル場合ヲ規定スルナリ

第百六十七條 本條ハ私印ヲ偽
造スル場合ヲ規定シタリ然レ
ドモ加藤清正又ハ菅原道實ノ
印ナドハ罪トナラズ

第百六十八條 意義視易キヲ以
テ別ニ註セズ

第百六十九條 法令ニ依リ宣誓
シトハ法律命令ノ定ムル所ナ
リ

第百七十條 懲戒處分トハ官吏
ガ職務ヲ瀆シタル場合ニア
リ

第百六十八條 第百六十四條第二項、第百六十五條第二項、第百六十六條第二
項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十章 偽證ノ罪

第百六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以
上十年以下ノ懲役ニ處ス
第百七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分
前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得
第百七十一條 法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲
シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ

第二十一章 誣告ノ罪

第七十二條犯罪アリト官へ申告スル者不實タルコト悪意アルコト此三個ノ要素ナカルヘカラス

第七十三條註セス

第七十四條公然トハ其區域甚ク廣シ白晝ニ風俗ヲ亂ストカ途上ヨリ見ルヘキ場所トカ皆公然ナリ

第七十五條猥褻ナル文書トハ淫事ヲ甚クシク醜體ニ書キタル書冊又ハ圖書トハ春畫又ハ淫部ヲ顯ハシタル繪葉書ヲ云フ

第七十六條本條ハ未タ覺知ナキ者ナレハ承諾ノ上タリト

モ其罪重シ

第七十七條強姦ノ罪ハ婦女ノ意ニ反シテ強テ之ヲ姦シ其節操ヲ破リ其身ヲ汚辱セラレカ故ヘナリ

第七十八條藥酒ヲ用ヒテ昏醉セシメ事理ノ心ヲ失ハシメ獸行ヲナスモノ前二條ノ如シ第七十九條甚ク難事ノ場合アリテ註セス

第八十條檢察官ノ公訴ニ依リテ其罪ヲ論ス

第八十一條註略ス
第八十二條婦女ニ勸メテ淫ヲ賣ラシメタル者ハ罪ニ處ス
第八十三條縱容シタル姦通

第七十二條 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第六十九條ノ例ニ同シ

第七十三條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十二章 猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪

第七十四條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第七十五條 猥褻ノ文書圖書其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

第七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

第七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ

第七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セ

シメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ

第七十九條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十條 前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第八十一條 第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シ

タル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第八十二條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十三條 有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ

第八十四條 配偶者アル者重子テ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ

第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

ハ效ナシ

第百八十四條本條ハ種々アリテ述ヘ難シ

第百八十五條娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ罰セス

第百八十六條禁開帳トハ親分ト

稱スルモノ自身ハナサスモ寺錢ヲ得ル者ナレハナリ

第百八十七條富籤ヲ爲スハ僥倖心ヲ增長セシメ竟ニ遊惰ニ

陥ル害アレハナリ

第百八十八條日本ノ如キハ神

國ト稱シテ神多シ佛敎モ耶蘇

敎モ包含セルナリ

第百八十九條註略ス

第百九十條藏置トハ入レテア

第百八十五條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓

以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在

ラス

第百八十六條 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

賭博場ヲ開帳シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以下ノ懲

役ニ處ス

第百八十七條 富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ

處ス

富籤ヲ發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處

ス

第二十四章 禮拜所及ビ墳墓ニ關スル罪

第百八十八條 神祠、佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ

六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

說教、禮拜、葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若シクハ禁錮又ハ百圓以

ル物ヲ遺棄シタルナリ

第百九十一條墳墓ニ埋葬シタ

ル死體、遺骨ヲ發掘シテ損壞

シ遺棄シ又ハ領得シタル者ノ

罪ヲ規定シタルナリ

第百九十二條檢視ヲ經スシテ

變死者ヲ葬ル者ノ規定ナリ

第百九十三條公務員カ人ヲシ

テ義務ナキコトナ行ハシメ又

ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル

トニ在リ

第百九十四條裁判官檢察官、

警察官ノ職務ヲ補助スル者ト

ハ市町村長等ノ者ヲサスナ

リ

第百九十五條刑事被告人、囚

下ノ罰金ニ處ス

第百八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十條 死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得

シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十一條 第百八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタ

ル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科

料ニ處ス

第二十五章 瀆職ノ罪

第百九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ

可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第百九十四條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫

用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第百九十五條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行

フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ

三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

人、監置人、留置人、懲治人ニ對スル暴行又ハ陵虚ノ行爲ヲナシタルトキモ其一例ナリ

第百九十六條 普通人ノ爲シタル行爲ニ比シテ重キハ至當ナリトス

第百九十七條 官吏カ收受シタル賄賂ハ發覺シタルトキハ其全部又ハ一部ヲ沒收スルモノトス然ルニ沒收スルコト能ハサルニ至ラハ其價格ヲ以テ沒收ス

第百九十八條 贈與トハ官吏ヨリ之ヲ求メサルニ自ラ贈ルモノ提供トハ要求ニ依ルモノナ

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虚ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

第百九十六條 前二條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第百九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以上ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徵ス

第百九十八條 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以上ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十六章 殺人ノ罪

第百九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第百九十九條 殺人トハ他人ノ生命不正ニ破壞スルコトナリ

第二百條 直系尊屬ノ如キハ人倫ノ最モ重ンスヘキ血族ナレハ是等ノ人ヲ殺スハ最モ殘忍

酷薄ノ行爲ナレハナリ

第二百一條 殺人罪ノ未遂罪ハ最モ種々ノ情狀アレハ註セス

第二百二條 註セス

第二百三條 其情狀輕キモノハ僅カ一年以下ノ懲役ヲ科シ或ハ本刑ヲ免シテ監視ノミニ付

スルコトヲ得セシム

第二百四條 第二百五條 前章ノ如ク人ヲ殺害スルノ意アリテ

第二百一條 前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

第二百二條 人ヲ殺害若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑托ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百三條 第百九十九條、第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十七章 傷害ノ罪

第二百四條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金

若クハ科料ニ處ス

第二百五條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百六條 前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百七條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ

爲シタルニ非ラスシテ傷害スルノ意ニ出テタルモ其暴行カ甚タシクシテ圖ラヌ死ニ致ラシメル場合ナルヲ以テ有期懲役ニ處スルニ止マルナリ是レ犯罪ハ其行爲ノ當時ニ意思ノ如何ト結果トニ因リテ處斷スルモノナレハナリ

第二百六條註セス

第二百七條罪ノ疑ハシキハ輕クスヘント云フ趣意ナルヘシト雖モ然ルトキハ犯罪實行ト刑ノ權衡ヲ失スルモノトシテ共犯例ニ依リ處分スルコトト爲シタリ

第二百八條本人ノ告訴ヲ待ツ

知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖トモ共犯ノ例ニ依ル

第二百八條 暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十八章 過失傷害ノ罪

第二百九條 過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百十條 過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九章 墮胎ノ罪

第二百十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ

テ其罪ヲ論スルモノトス

第二百九條舊法ハ過失殺傷ト名ツクト雖モ其語穩當ヲ缺クカ故ヘ之ヲ改メテ過失傷害ト爲シタリ

第二百十條罰金ノ多額ナルノミ

第二百十一條婦女自身カ藥物ヲ用ヒテ墮胎セシムル場合ノ罪

第二百十二條註略ス

第二百十三條他人ノ勸メニ依リ之ヲ承諾シ他人ニ其行爲ヲ爲サシムルヲ云フ

第二百十四條註ヲ要セス

第二百十五條強制的ニ婦女ノ

一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十三條 婦女ノ囑托ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十四條 醫師、産婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑托ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十五條 婦女ノ囑托ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得シテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百十六條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二十章 遺棄ノ罪

第二百十七條 老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

意ニ反シテ之ヲ爲ス者ナレハ其情狀甚タ重キモノナリ

第二百十六條普通ノ者ヲ傷害スルヨリモ其罪重キハ當然也

第二百十七條遺棄スルハ見捨テ、保護セサルノ義ナリ之ヲ

二個ニ區別シテ一ハ無人寂寥ノ地ニ棄テルヲ云フ一ハ養育

ヲ爲サス打棄テ置クヲ云フ

第二百十八條直系尊屬ニ對シテ犯シタル場合ハ其罪重シ

第二百十九條註セス

第二百二十條屢々述べタル理由ナルヲ以テ重テ説明スルヲ

略ス

第二百二十一條本條モ説明ヲ

第二百十八條 老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄

シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十九條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪

第二百二十條 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十一條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二十二章 脅迫ノ罪

要セス

第二百二十二條脅迫ハ獨リ他人ニ對スル場合ノミヲ以テ本

罪ヲ構成スルモノトセズ親族ノ者ニ對シテ此害ヲ加ヘント

脅迫スルトキハ本罪ヲ爲スモノトス何レノ場合ニ於テモ被

脅迫者ニ於テ畏怖ヲ生シ脅迫ニ從ヒ實行シタルト否トナ間

ハス脅迫ノ實アレハ以テ是レ行ハスルモノナリ

第二百二十三條單ニ言語、舉動、容姿ノミヲ以テ脅迫スル

場合ナラス暴行即チ腕力其他ノ物ヲ以テ脅迫スル場合ト言

語ヲ以テスル場合ナリ

第二百二十四條説明ヲ要セス

シテ裁判官ノ認定ニ任スモノ

第二百二十二條 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ

以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

第二百二十三條 生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十三章 略取及ヒ誘拐ノ罪

第二百二十四條 未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十五條 營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

ナリ
 第二百二十五條 被害者ニ於テ容易ニ承諾セサルヲ以テ遂ニ偽計又ハ威力ヲ以テ誘惑シ又ハ恐怖セシメテ拐取スルモノナリ

第二百二十六條 註セス

第二百二十七條 取者ヲ幫助スル者ハ罪ニ關スルナリ

第二百二十八條 未遂罪ヲ罰スルモノナリ

第二百二十九條 一旦結婚ヲ許シタルハ最早其結婚ノ上ヨリ見ルモ其訴訟ヲ採用スヘキモノニアラス犯人ハ婚ヲナシタルトキハ其婚姻ヲ無効トナルカ又ハ取消ノ訴訟ヲ起シテ其裁判ヲ確定シテ取消サレタル

後ニ非ラサレハ效ナシ
 第二百三十條 死者ニ對シテ名譽ヲ毀損シタル場合ニ其事實ノナキトキハ之ヲ罰スル所以ハ死者其人ノ名譽ヲ害スルニ非スト雖モ其死者ノ遺族ノ名譽ヲ害スルヲ以テナリ
 第二百三十一條 惡事醜行ハ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ヲ罰スルノ規定ナリ
 第二百三十二條 註略ス
 第二百三十三條 信用ヲ毀損スルト其業務ヲ妨害スルトノ二個ハ分ツテ犯罪ヲ構成スル場合ナリ
 第二百三十四條 偽計トハ詐欺

第二百二十六條 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ

第二百二十七條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十八條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百二十九條 第二百二十六條ノ罪、同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ何テ犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限り告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ヲ無効又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ

第二百二十九條 第二百二十六條ノ罪、同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ何テ犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限り告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ヲ無効又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ

第二十四章 名譽ニ對スル罪

第二百三十條 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ起固ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス

第二百三十一條 事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二百三十二條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪

第二百三十三條 虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十四條 威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第二十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪

第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲ス

ノ計策ヲ意味シ威力トハ暴行ノ意味ニ解スヘシ
 第二百三十五條其種類多クシテ述ヘ難シ
 第二百三十六條第二百三十七條罪名共ニ註略ス
 第二百三十八條罪名湮滅スル爲メトハ自己カ窃盜ヲ爲シタル證據ヲ滅失スルヲ云フ
 第二百三十九條人ヲ昏醉セシムルトキハ藥酒ヲ用ヒテ睡眠スルニ至ラシムルヲ云フ
 第二百四十條註略ス
 第二百四十一條強盜ノ目的ヲ以テ家宅侵入シタル場合ニ婦女ヲ強姦シタルノ罪ニ限ラス

爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス
 前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セメタル者亦同シ
 第二百三十七條 強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス
 第二百三十八條 窃盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ論ス
 第二百三十九條 人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ窃盜ヲ以テ論ス
 第二百四十條 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
 第二百四十一條 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス
 因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
 第二百四十二條 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス
 第二百四十三條 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

婦女ヲ強姦シテ後チ強盜ヲナシタル場合モ包含ス
 第二百四十二條註略ス
 第二百四十三條本條ハ新タニ設ケタル規定ナリ
 第二百四十四條直系血族トハ祖父母父母子孫ヲ謂フナリ其他ノ親族ニ係ルトキハ告訴スレハ之ヲ罪ストシタリ
 第二百四十五條供給者ノ承諾ヲ得スシテ約束外ニ使用シタルトキハ窃盜ノ罪ヲ構成スルモノトス
 第二百四十六條詐欺取財ノ場合ヲ規定シタルモノナリ
 第二百四十七條他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者トハ財産管理人ノ如キ者ナリ

第二百四十四條 直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
 親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス
 第二百四十五條 本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス
第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪
 第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
 前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ
 第二百四十七條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二百四十八條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百四十八條 未成年者ハ十分ノ思慮ナキ者ニシテ事理ノ辨別至ラサルヲ以テ此等ノ者ヲ欺罔スルハ甚タ易キ事ナリ

第二百四十九條 人ノ財物ヲ騙取スルコトヲ目的トスル場合ヲ規定スルモノナリ

第二百五十條 及ヒ第二百五十一條ハ意義明了ナレハ之ヲ略ス

第二百五十二條 冒認罪及ヒ受寄物財産費消費罪ト同シ

第二百五十三條 例セハ倉庫會社カ他人ノ荷物ヲ預リタル場合ノ如シ

第二百五十四條 註略ス

第二百四十九條 人ヲ忍喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百五十條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百五十一條 本章ノ罪ニハ第二百四十二條、第二百四十四條及ヒ第二百四十五條規定ヲ準用ス

第二十八章 横領ノ罪

第二百五十二條 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十四條 遺失物、漂流物、其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五十五條 親族間ニ於テ爲シタル行爲ハ横領ノ罪トナラス

第二百五十六條 贓物ニ關スル犯罪ノ規定ナリ

第二百五十七條 別ニ説明ヲ要セスシテ視易キヲ以テ之ヲ略セリ

第二百五十八條 人民ヨリ差出シタル書類又ハ帳簿等ヲモ合ム

第二百五十九條 本條ハ被害者ヨリ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スルモノナリ

第二百六十條 不動産ニシテ建物又ハ艦船ノ損害シタル者ニ

者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五十五條 本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス

第二十九章 贓物ニ關スル罪

第二百五十六條 贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條 直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪

第二百五十八條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十九條 權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

付テノ規定ナリ
 第二百六十一條本條モ亦告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
 第二百六十二條前三條ノ例ニ依ル
 第二百六十三條秘密ヲ侵ス罪ノ中ニ同一ノ規定アレハ茲ニ之ヲ略ス
 第二百六十四條註略ス

第二百六十條 他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス
 因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス
 第二百六十一條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス
 第二百六十二條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル
 第二百六十三條 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス
 第二百六十四條 第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

註釋終

改正新刑法註解終

新刑法通用

判決例概要

新刑法の新

刀試し

控訴しても死刑
 茲に掲げる判決事件は東京控訴院の管内に於て始めて新刑法により死刑の宣告をなしたる事件にして今この事件の概要を述べんに長野縣上水内郡南小川村大字小根山農村越音重(四十)の妻お留奈は數年前より同村農村越佳治(卅五)と姦通し居たるが兎角音重が邪

改正刑法施行法

(明治四十一年三月二十七日法律第二十九號)

第一條 本法ニ於テ舊刑法ト稱スルハ明治十三年第三十六號布告刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ刑法施行前ニ公布シタル法律及ヒ勅令、布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條 刑法施行前ニ舊刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ刑法ノ主刑ト舊刑法ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ其輕重ヲ定ム

刑法ノ刑	死刑	舊刑法ノ刑	死刑
無期懲役	無期懲役	無期懲役	無期懲役
無期禁錮	無期禁錮	無期禁錮	無期禁錮
有期懲役	有期懲役	有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮	有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮
有期禁錮	有期禁錮	有期流刑、重禁獄、輕禁獄、輕禁錮	有期流刑、重禁獄、輕禁獄、輕禁錮
罰金	罰金	罰金	罰金

魔になつて勝手に樂む事の出
 來ぬより寧ろ音重を亡者にせ
 んとして女の方から姦夫の佳治
 を殺し昨年九月十四日佳治
 にモルヒネを買せ同十六日佳
 治の手で音重に飲ませんと謀
 りしも目的を達せざるを以て
 更に共謀して手短に荒療治を
 なさんとて二十二日夜お留奈
 は八幡宮へ參詣にと詐り音重
 を誘出し佳治は之を途中にて
 待受け楓樺にて亂打したる上
 絞殺したる事件にて巖に長野
 地方裁判所にて兩人共死刑の
 宣告を受けたるも之に服せず
 控訴したる十月二日東京控訴

拘留

科料

第三條 法律ニ依リ刑ヲ加重減輕ス可キトキ又ハ酌量減輕ヲ爲ス可キトキハ
 加重又ハ減輕ヲ爲シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ
 數罪ヲ犯シタル者ニ付テハ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ヲ適用シタル後
 刑ノ對照ヲ爲ス可シ
 一罪ニ付キ二個以上ノ主刑ヲ併科ス可キトキ又ハ二個以上ノ主刑中其一個ヲ
 科ス可キトキハ其中ニテ重キ刑ノミニ付キ對照ヲ爲ス可シ併合罪又ハ數罪俱
 發ニ關スル規定ニ依リ數罪ノ主刑ヲ併科ス可キトキ亦同シ
 第四條 刑法施行前舊刑法又ハ他ノ法律ノ規定ニ依リ告訴ヲ待テ論ス可キ罪ヲ
 犯シタル者ハ刑法ノ規定ニ依リ告訴ヲ要セザルモノト雖モ告訴アルニ非サレ
 ハ其罪ヲ論セス
 第五條 刑法第六條ニ依リ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合ニ於テハ剝奪公
 權停止及懲役又ハ罰金ヲ附加ス可キトキト雖モ之ヲ附加セス
 第六條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行ノ前又ハ後ニ確定裁判アリタ
 ル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ左ノ例ニ依ル

院に於て原判決の通り新法に
 則り死刑を宣告したるが兩
 人は新刑法にて罪の輕くなる
 ものと心得居ればこの判決
 に落膽しすさす引下りたる
 は寧ろ心地よかりしと。

小便で拘留

二十日

拘留十數回の厄

介男

新潟縣生れにて當時内藤新宿
 南町六十番地日稼業木村鐵太
 郎(三十九)は酒癖悪く是迄十
 數回處々の警察に拘留處分
 を受けたる者なるが十月三日

一 確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ刑法
 又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ併
 合罪ニ關スル規定ヲ準用ス
 二 確定裁判アリタル罪ニ刑法又ハ他ノ法律ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適
 用シタルトキト雖モ舊刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ數
 罪俱發ニ關スル規定ニ依ル

第七條

左ニ記載シタル者刑法施行前更ニ刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該ル
 罪ヲ犯シ刑法施行後其罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ
 刑ヲ定メタル法令ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス
 一 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者
 二 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪
 ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ懲役ニ相當スル
 刑ニ減輕セラレタル者

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ處斷セラレタル
 者ニ之ヲ準用ス

第八條 刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ

午後八時頃東京四谷區鹽町蕎麥屋尾崎方にて散々飲食して勘定を拂はず去らんとせしを同家の者が請求せしに之を怒り徳利を抛附て亂暴し遂に巡査に取押へられ拘留所に入られたり然るに酔未だ醒めず側に座したる二三の在監人の頭上に臭き瀧の水を浴せかけなど亂暴をなせしより遂に二十日の拘留に處せられたり

▲二圓七十錢

で 有 期 懲 役

十 年

付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキト雖モ其罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第九條 刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リテ定マリタル一ノ重キ罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用ス可キトキハ其數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

第十條 刑法施行後ニ犯シタル罪ニ付キ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ其罪ニ付舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ確定裁判アリタル罪ト其罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行後確定裁判アリタル後刑法施行後ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

宛 一年が二十七錢

これは長崎地方裁判所で新刑法實施の二日目即ち十月二日に言渡したる事件にて被告は林甚太郎と云ひ前科五犯の男にして僅に金二圓七十錢を盗みたるのみなり蓋し斯の如き男は到底改悛の見込なしとして極刑の十年を科せられたるなり

▲貼紙の罰金

十九圓

電信柱に百五枚

スル規定ヲ準用ス

第十二條 第七條第一項各號ニ記載シタル者刑法施行後有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 刑法施行後ハ舊刑法又ハ舊刑法施行前ノ法令ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ刑ノ執行假出獄及ヒ時効ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞役場ニ留置スル場合ニ於テハ檢事ノ請求ニ依リ裁判所決定ヲ以テ其言渡ヲ爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ第二條及ヒ明治十四年第八十一號布告第一條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

舊刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ刑法施行前ニ於ケル時効期間ノ起算及ヒ時効ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ關スル規定ニ從フ

第十四條 刑法施行後ハ舊刑法ノ刑ニ處ス可キ者ト雖モ刑ノ執行猶豫ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

第十五條 刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及ヒ幽閉ヲ免セラレタル者ニ付テ

東京下谷區萬年町一丁目三十番地吉田大輔方止宿新潟縣三島郡岩田村關谷瀧十郎（四十一）は昨年三月中麴町區霞ヶ關に於て直訴を企て其筋の手に押へられしも精神病者として放免せられしが十月二日夜「社會主義者普通選舉既成大會を來十月四日日比谷公園に開くと大書せる三尺餘の紙片を日本橋區上横町、西河岸、仲通、數寄屋町等の電信柱に百五枚を貼附して新橋分署の手に取押へられ警察廳罰令に依り罰金十九圓に處せられた

▲人騒せの廣

告

犯之新警察令違

十月二日の夜東京橋の空に不思議の光りが顯はれるなど、大袈裟な廣告をなしたる者あるより物見高いは都人の常これに欺むかれて吾もくど午後六時頃より其附近に集まり非常な雑踏を極めたるがさて其不思議の光りとは△△と云ふ藥の電氣變色の廣告に過ぎざれば群集は怒りて騒ぎ立ち形勢不穩となりて九時半頃

ハ刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用ス

刑法施行前罰金又ハ科料ヲ完納セサル爲メ輕禁錮又ハ拘留ニ換ヘラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法第十八條及ヒ第三十條ノ規定ヲ準用ス但留置ノ日數ハ其執行ノ日ヨリ起算シ刑法第十八條ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條 懲治場留置ノ執行ハ刑法施行後ト雖モ從前ノ例ニ從フ但司法大臣ハ何時ニテモ其留置ヲ解キ又ハ感化院ニ入院セシムルコトヲ得

第十七條 缺席判決ヲ以テ言渡シタル刑ノ時効期間ハ其言渡ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十八條 剝奪公權、停止公權、監視及附加ノ罰金ノ言渡ハ刑法施行ノ日ヨリ其效力ヲ失フ但既ニ徵收シタル附加ノ罰金ハ之ヲ還付セス

附加ノ罰金ヲ完納セサル爲メ換ヘラレタル禁錮ニ付キ亦前項ニ同シ

第十九條 他ノ法律ニ定メタル主刑ハ第二條ノ例ニ準シ刑法ノ刑ニ對照シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但單ニ禁錮トアルハ之ヲ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ變更ス

他ノ法律ノ規定中剝奪公權、停止公權、監視及ヒ附加ノ罰金ニ處ス可キ旨ヲ定メタルモノハ之ヲ廢止ス

第二十條 他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其期間又ハ金額ヲ變更セス但他ノ法律中特ニ期間又ハ金額ヲ定メサル刑ニ付テハ仍ホ舊刑法總則中間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フ

第二十一條 他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又ハ減輕ス可キ場合ニ於テハ第二十三條ノ場合ヲ除ク外舊刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ依ル

第二十二條 他ノ法律中舊刑法ノ規定ヲ掲ケ又ハ舊刑法ノ規定ニ依リ若クハ之ニ依ラサルコトヲ定メタル場合ニ付キ刑法中其規定ニ相當スル規定アルモノハ刑法ノ規定ニ變更ス

爆發物取締罰則第十條ハ之ヲ廢止ス

第二十三條 前條ノ規定ニ依リ刑法ノ刑ヲ適用ス可キ場合ニ於テハ他ノ法律中刑ノ加重ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ適用セス刑ノ減輕ノ方法ニ付テハ刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ從フ

第二十四條 明治二十二年法律第二十八號及ヒ明治二十三年法律第九十九號ハ之ヲ廢止ス

第二十五條 左ニ記載シタル舊刑法ノ規定ハ當分ノ内刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

一 第二編第三章第五節

警官の廣告を差止められたる同店の高橋何某(四十三)は翌朝京橋分署に引致せられ新警察令違反として取調べを受けたりといふ

▲賭博で懲役

三年六ヶ月

博徒親分の處刑

新刑法實施の後數日の事なるが京都地方裁判所に於て賭博の罪により有期懲役三年六ヶ月に處せられたるものあり、これは博徒の頭領俗に親分にて博奕を常の營業となせるものにて關西地方には其名を知

- 二 第九十八條乃至第二百條
- 三 第二編第四章第七節及第九節
- 四 第二編第五章第三節
- 五 第三編第二章第四節

刑法第八條ノ規定及ヒ本法中他ノ法律ニ關スル規定ハ之ヲ前項ノ規定ニ準用ス

第二十六條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第二條ノ例ニ從フ

- 一 軍機保護法ニ掲ケタル罪
- 二 徵兵令ニ掲ケタル罪
- 三 明治三十八年法律第六十六號ニ掲ケタル罪
- 四 通貨及證券模造取締法ニ掲ケタル罪
- 五 船舶法ニ掲ケタル罪
- 六 船員法ニ掲ケタル罪
- 七 船舶職員法ニ掲ケタル罪
- 八 船舶検査法ニ掲ケタル罪
- 九 戶籍法ニ掲ケタル罪

られ一ヶ月のテラ銭は少くも二百圓や三百圓もありたる者なる由、舊刑法に於ては新刑法に比し割合に賭博の刑が輕かりしが新法は其適用の區域を廣くし情狀により千圓以下の罰金又は科料に處すものにして、常の行ひとして賭博をなし又は賭事をなしたる者は三年以下の懲役又賭博場俗に云ふ賭場を開き又は賭徒を結合して利を圖りたる者は三月以上五年以下の懲役に處せらるゝものなれば此者などは刑法三百八十三條第三項によりて處刑せられたるものなり。

十 郵便法ニ掲ケタル罪

十一 舊刑法中印紙ノ偽造、變造及ヒ其知情使用ニ關スル罪

第二十七條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ從フ

一 著作權法ニ掲ケタル罪

二 重要物産同業組合法ニ掲ケタル罪

三 移民保護法ニ掲ケタル罪

第二十八條 人ノ資格其他ノ事項ニ關シ舊刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ掲ケタル他ノ法律ノ規定ハ刑法施行ノ爲メ變更セラルルコトナシ

第二十九條 死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト看做ス

第三十條 前條ニ該當セサル懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

第三十條 前條ニ該當セサル懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

されば從來の如く「何一と月か二月往つて来るばかりだ御年貢だ」などとて賭事をなす者は斯かる處刑を受くべきにより蓄つて賭事を始め國の法律にて禁せられたることはなざる様心掛けざるべからず

重罪や輕罪

となる

新刑法減刑の一

例

以上かゝげたるは新刑法によりて重く罰せられたる判決例なるが茲に掲げたるは新刑法

前條ニ該當セザル禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ該ル罪ト看做ス

第三十一條 拘留又ハ科料ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ違警罪ト看做ス

第三十二條 他ノ法律ニ定メタル罪ニシテ死刑無期又ハ短期六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ルモノノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十三條 死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

第三十四條 前條ニ記載シタル者及ヒ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ公權ヲ剝奪セラレタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ復權ヲ得タル者ニハ之ヲ適用セス

第三十五條 六年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

六年未滿ノ懲役ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス

六年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス

第三十六條 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及ヒ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ルマテ公權ヲ停止セラレタルモノト看做ス

第三十七條 他ノ法律中舊刑法第三十一條又ハ第三十三條ノ規定アル爲メ人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケザリシ場合ニ付テハ舊刑法第三十一條及ヒ第三十三條ノ規定ハ人ノ資格ニ關シ刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十八條 刑事訴訟法第八條ヲ左ノ如ク改ム

第八條 公訴ノ時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ完成ス

一 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年

二 無期又ハ長期十年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年

三 長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年

四 長期五年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年

五 刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ一年

六 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

第三十九條 刑事訴訟法第六十二條第三號ヲ左ノ如ク改ム

によりて輕くなりたるものなり
 長野縣信濃國南佐久郡櫻井村の平民井澤茂吉(六十七)といふは同村の白痴なる若下お福(四十二)と通じて本年二月十三日分娩したる女の兒を殺したる爲め長野地方裁判所に於て重懲役九年の判決の言渡を受けたりしがこれに服せずして東京控訴院へ控訴し爾後同院に於て審理の結果今回の新刑法により有期懲役二年六月に處せられたり之には犯罪當時の事情に察すべき事情が後に至りて知れ夫れが爲めに減刑せられたるものなるべ

左眼を潰して罰金二百圓

被害者にも悪處あり

他人の左の眼を潰して到底元の様なる大怪我をさせた其刑が罰金二百圓とは安過ぎると思はるゝが之れは十月六日大阪地方裁判所にて審理中なりし傷害事件の判決にして今其の事件の大要を述べんに被害者即ち眼を潰された男は大阪近邊に知られたる大の悪

第三 區裁判所ノ管轄ニ屬スル罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ區裁判所檢事ニ送致ス可シ

第四十條 刑事訴訟法第二百二十五條第二號ヲ左ノ如ク改ム

第二 醫師、藥劑師、藥種商、産婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者及ヒ宗教者若クハ禰祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル事實ニシテ默秘ス可キモノニ關スルトキ

第四十一條 刑事訴訟法第二百二十六條第一項中「刑法第八十條ニ從ヒ罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改メ同條第二項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

同法第二百二十八條中「刑法第七十九條ニ從ヒ「罰金」ヲ四十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ改ム

同法第二百四十四條第一項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

第四十二條 刑事訴訟法第二百六十七條第一項ヲ左ノ如ク改メ第三項ヲ削ル

被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト思料シタルトキハ公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ

第四十三條 刑事訴訟法第七十二條ヲ左ノ如ク改ム

第七十二條 檢事ハ免訴又ハ管轄違ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 刑事訴訟法第二百三十六條中「輕罪、重罪」ヲ削ル

第四十五條 刑事訴訟法第二百四十一條ヲ左ノ如ク改ム

第二百四十一條 裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキハ其事件ヲ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲スコシ檢事ノ請求アルトキ亦同シ

被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムヘシ

受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 刑事訴訟法第二百六十四條中「更ニ重罪事件トシテ裁判ス可キ旨」ノ決定ヲ爲シ「」ヲ削ル

第四十七條 刑事訴訟法第三百十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

監獄ニ於テ執行ス可キ二個以上ノ主刑ノ執行ハ其重キモノヲ先ニス但特別ノ事由アルトキハ檢事ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十八條 刑事訴訟法第三百十八條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

漢にして既にこれ迄三度も賭博とか毆打だとかいふ罪で入獄したる程の者で又この事件の起因は加害者の妻が未だ加害者と夫婦にならざりし以前より懸想して居たのを突然加害者の方へ嫁入したるを憤り本年九月三日の夜加害者に事を構へて喧嘩を賣りつけ豫ての見込通りに首尾よく組打ちを始めたが遂に加害者の爲めに酷く投げつけられ倒れる拍子に傍にありたる切石に左の眼を打ちつけ遂に其機能を失ふに至らしめ加之に右の腕をも折りたるものなるが事の起

原は被害者からにて事實は充分被害者の悪き故なり

▲硫酸を浴び

せて有期懲

役十三年

然も目的を達

せず

女の恨しむべきは嫉妬なるが然も其目的を達せずして有期懲役十三年とは今更自分も後悔せるなるべく世間の人も之を見て憤むべし。

新潟縣下越後國長浦町の松澤お芳(四十四)といふは其の情

第三百十八條ノ二 死刑ノ執行ハ檢事及ヒ裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ爲ス可シ

死刑ノ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得ス但檢事又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タルモノハ此限ニ在ラス

第三百十八條ノ三 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失シタルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ其痊愈ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ分娩後司法大臣ノ命令アルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得ス

第四十九條 刑事訴訟法第三百十九條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其事故ノ止ムマテ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

一 心神喪失ノ状態ニ在ルトキ

二 刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ

三 受胎後七月以上ナルトキ

四 分娩後一月ヲ過經セサルトキ

第五十條 刑事訴訟法第三百二十條中「之ヲ爲スコシ」ノ下ニ「刑ノ執行ノ停止

夫なる同村松澤米次の妻お登

那を殺さんとして硫酸をかけ

たるに誤つてお登那の抱き居

たる娘お宇乃(一)の面部にか

け遂に死に致さしめたるにて

遂に新潟地方裁判所に於て審

理の末有期懲役十三年に處せ

られたりと云ふ

▲強姦未遂で

有期懲役二

年

横濱の出齒龜

横濱市 枝町三十三番地坂口

濱(四十二)といふは本年二

ニ付キ亦同シ」ヲ加へ第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ徵收ニ付テハ非訟事件手續法第二百八號ノ規定ヲ準用ス

第五十一條 刑事訴訟法第二十四條第六十三條、第六十八條、第七十三條

及ヒ第七十四條但書ハ之ヲ削ル

第五十二條 刑事訴訟法中復権及ヒ特赦ニ關スル規定ハ之ヲ削ル

第五十三條 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ム可キ場合ニ

於テハ其犯罪事實ニ付キ最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求

ヲ爲スコシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聞キ決定ヲ

爲スコシ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 刑ノ執行猶豫ハ裁判所ニ於テ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ刑

ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ言渡スコシ

第五十五條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ上訴ニ因リ其效力ヲ失フコトナシ但原判決

ヲ取消シ又ハ破毀シタル場合ハ此限ニ在ラス

上訴裁判所ハ新ニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スコキ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタ

月中同市末吉町二丁目十二番地なる宮本お八重(二十七)といふ婦人を自分の妾宅に連れ行きて強姦をなさんとしてお八重に傷を負はしめたる事件は横濱地方裁判所に於て審理中なりしが遂に有期禁錮二年を申渡されたり

▲公訴及私訴

公訴及び私訴の目的

公訴は犯罪を證明し刑を適用することを目的とするものにして法律に定めたる區別に従ひ検事之を行ふ

ル者ノ所在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ検事長裁判所ニ請求ヲ爲スコシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スコシ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 第五十三條及ヒ前條ノ裁判及ヒ抗告ニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第五十八條 明治三十八年法律第七十條ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ仍ホ猶豫ノ期間ヲ經過セサル者ハ刑法ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルモノト看做ス

第五十九條 明治三十九年法律第五十四號ハ之ヲ廢止ス

第六十條 私訴ハ公訴ニ附帶スルトキハ民事訴訟ノ方式ニ依ラス書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 贓物犯人ノ手ニ在ルトキハ被害者ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付スル言渡ヲ爲スコシ

第六十二條 左ニ記載シタルモノヲ以テ公訴ニ關スル訴訟費用トス
一 豫審、公判ニ付キ呼出シタル證人、鑑定人及ヒ通事ニ給與スヘキ日當

旅費及ヒ止宿料

二 第六十六條ニ記載シタル費用

第六十三條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ左ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム

一 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付金二十錢乃至金五十錢但止宿料ヲ給與スル場合ニ於テハ日當ヲ給與セス

二 鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付金三十錢乃至金五圓

第六十四條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ旅費ハ海陸路一里ニ付キ金五錢乃至二十錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但通路兩線アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

前項ニ掲ケタル者ノ止宿料ハ一日ニ付金二十錢乃至金一圓ノ範圍内ニ於テ豫審判事受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但八里以上ノ地ヨリ來リ滞在スルトキニ非サレハ之ヲ給與セス

第六十五條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ豫審ニ於テハ其終結前、公判ニ於テハ其判決前ニ本人ヨリ請求スルニ非サレハ之ヲ給與セス

第六十六條 鑑定、通譯ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スル

私訴は犯罪により生じたる損害の賠償、贓物の返還を目的とするものにして民法に従ひ被害者に屬す

公訴權及び私訴權の消滅

公訴權は左の事項に由り消滅す

一、被告人の死去

二、告訴を待て受理すべき事件に付ては告訴の拋棄

三、確定判決

四、犯罪後頒布したる法律に因り其刑の廢止

五、大赦

六、時効

私訴をなす權は左の事項によ
りて消滅す

一、抛棄又は和解

二、確定判決

三、時効

公訴の時効期間左の如し

死刑に該る罪は十五年

無期又は十年以上の懲役若

くは禁錮に該る罪は十年

十年未満の懲役又は禁錮に

該る罪は七年

五年未満の懲役又は禁錮若

くは罰金に該る罪は三年

刑法百八十五條の罪は一年

拘留又は科料は六ヶ月

トキハ日當ノ外別ニ金額ヲ給與スルコトヲ得
第六十七條 共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ノ連帶負擔トス

附 則

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

刑法附則其他舊刑法施行ノ爲メ公布シタル法令ハ之ヲ廢止ス

改正刑法施行法終

明治四十一年十一月廿五日印刷

明治四十一年十二月二日發行



編輯者 東京市日本橋區若松町四番地

湯淺 策

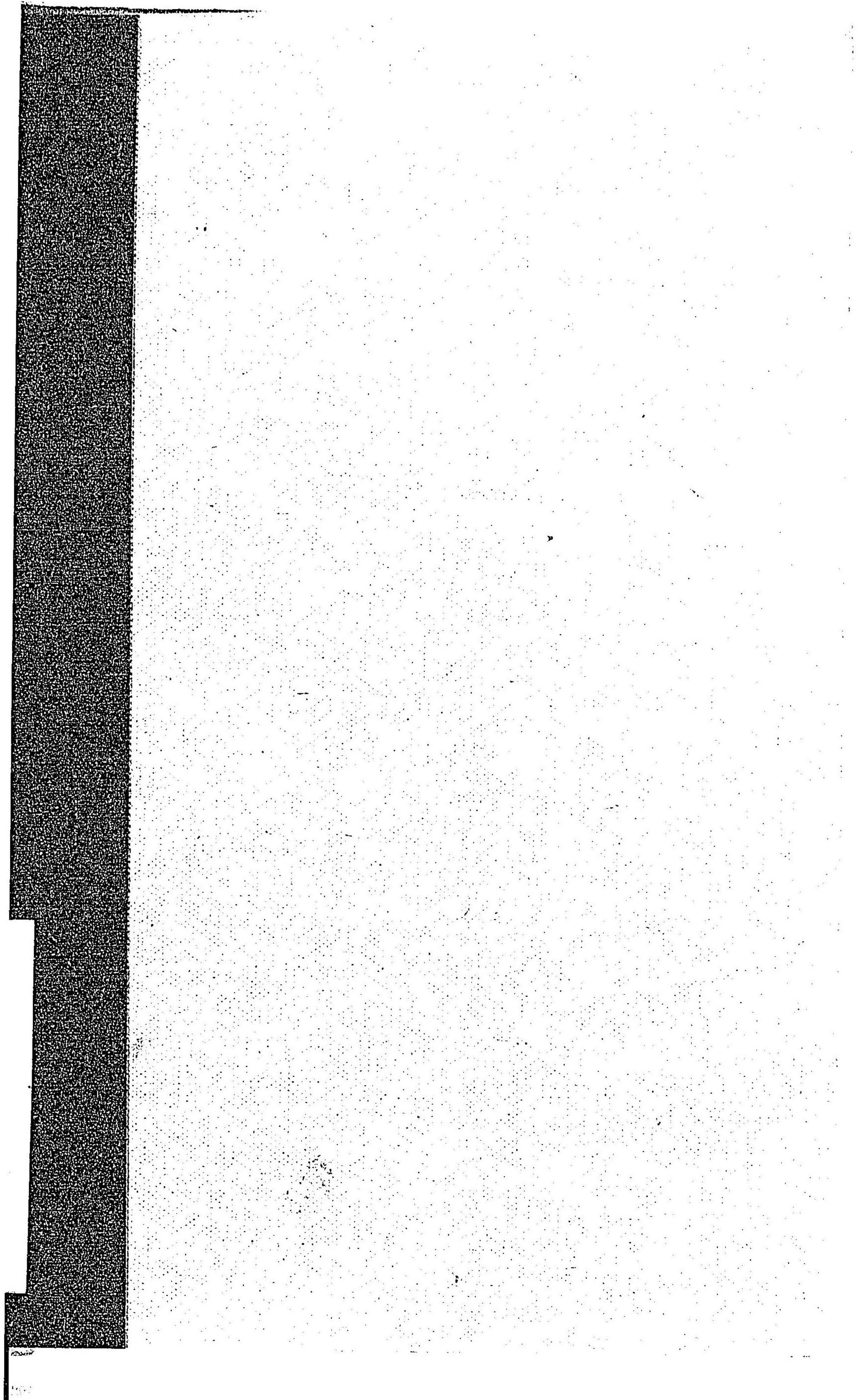
印刷者 東京市日本橋區若松町廿二番地

井出 五三九

印刷所 東京市日本橋區若松町廿二番地

日進 舍

257
790



特 50

124

改正新刑法註釋

国立国会図書館

036053-000-0

特50-124

新刑法註釈(改正)

法律研究会／刊

M41

BBP-0681

